

国立国会図書館 蒲公英経 : 3巻 207-287

ガラス使用



行孝  
蒲公英経

むぎふみん  
三冊

207  
287

寛文四

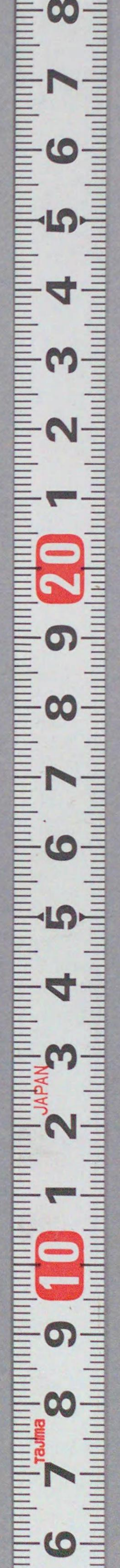




天運曰以敬愛孝易而  
 忘親難 其庶人子  
 父母使<sup>ミカド</sup>之志家出<sup>イ</sup>の  
 福<sup>レ</sup>子<sup>セリト</sup>之<sup>ニ</sup>矣  
 孝 忠 孝 友 人 徳

序

明治三十四年





長望も  
 滑る  
 まさか  
 ところ  
 まいり  
 すれも  
 あとせす  
 ももり  
 とつとつを  
 ふくー曰  
 つすれも  
 あみせは  
 せんきよの  
 微言ある  
 トしそれ  
 こもつれも  
 あれ



岩る  
 鼓を  
 なうして  
 湧ちる  
 流れよさうて  
 たんちくとさ  
 何ありさあ  
 おさきふくー  
 せん花とさまひ  
 丘ちとじといふ  
 けいづ  
 たいさ  
 えく  
 まきの人  
 故きて

















丘先生の門人よ  
 昔根をたぐ  
 と云もの有り  
 人子みたりむろろ  
 なる左あまの  
 冬を命と人ハ  
 後にも天性  
 師のあしを  
 父母は孝  
 なる中  
 人もあよ  
 たる不  
 何のち  
 おやある者  
 のかえん人  
 日こそい



あかむを二つ  
 さー上あま  
 さいとあて  
 こころあは



















曾公おす  
 師の唯と  
 疾との  
 言のちもむさよあん  
 たし  
 てうまの父母のたぐひをのまへ

ならんを日老凡あよ  
 がうれて花よ  
 ふすハせんく  
 孝のこころま  
 もをい  
 らぬもの  
 あふん

何皮せいらと  
 ちせ  
 ちせ



先  
 師ものの人と  
 一バモ日  
 男総くバヤまぬも孝のツテ  
 父母のいたなるれハもろ人の  
 一人曰酒色利欲よがをこそすれ  
 病を生ずるたぐひハ侍するよ

孝よ富貴をえん  
 の名よ  
 の孝ハ  
 ひんたんの孝ハ  
 をい久とちんハ父母の  
 子とちいするハちん  
 め人情をさるわつらん  
 りあふのらん  
 りらん







孝ハ人君のもと  
ありハとてつ人の  
君ハ孝のまゝ心を  
かきとけてけえらる







たんやのたつま  
 之村よ  
 六島  
 とてま  
 民  
 の母父  
 心  
 と  
 さめむ  
 とあさ  
 んこのも  
 ろうはむを  
 りこよ  
 女アハ心の

いもを  
 をして  
 ちやの口  
 せりしむ  
 める

んトや  
 ちつとあ  
 いつよりおを  
 ぬまをえのおあ  
 あらふ







孝んよ  
 もと  
 つんど  
 のこと  
 あれハ  
 の大友  
 の夜  
 かんき  
 のみヤ  
 りまよ  
 まぶら  
 ちる  
 よめよ  
 あをいれ  
 あつさを  
 志のぐ



父かま  
 こし  
 九十五  
 母九十三  
 百とせ  
 ちうき  
 りら  
 あり  
 のさ  
 のさ  
 のさ  
 たの  
 第の  
 こま  
 まい  
 もと  
 めん  
 京  
 走





















207  
禁  
287

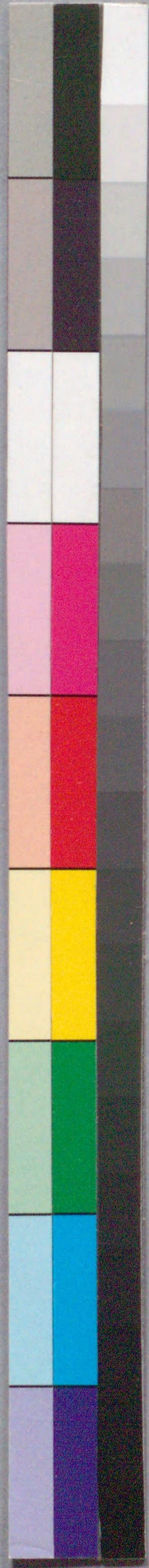
国立国会図書館

蒲公英経：3巻 207-287

ガラス使用







国立国会図書館 蒲公英経：3巻 207-287



ガラス使用

